

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 143

2020/03/24/Tue

新年度まであと8日

壇の浦の戦いで平氏が滅亡 1185年

コッホ、結核菌を発見 1882年

米国大使ライシャワー刺傷事件1964年

蒸気機関車、引退 1970年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

真岡市内の小学校の卒業式も終わる！

臨時休校も本日まで…本来なら3学期最終日

明日から春休み=年度末・年度始め休業へ！

— 引き続き交通事故や感染症に気を付けて生活を！ —

本来ならば本日3/24(火)が令和元年度修了式のはずでした。臨時休校からの春休みで、かなり長期にわたる休みになります。

今後の予定についてお知らせします。感染症予防の徹底をした上での実施するものです。

必ず検温し、風邪の症状や熱があるときは休んでください。

- ・校庭開放 … 3/25(水)・26(木)・27(金)・30(月)・31(火)
- ・部活動 … 4/3(金)から再開
- ・準備登校 … 4/7(火)=新任式・入学式準備・新入生オリエンテーション
- ・始業式、入学式… 4/8(水)

詳細な時間については、一斉メール等でお知らせします。

「卒業式」に代表として出席をして …①



3/9(月)の卒業式には在校生代表として生徒会長的那花衣桜里さん(2-1)が送辞を心を込めて述べました。前号で述べたように、卒業式に出席できた在校生は3名でした。

今回は、その那花さん(1-2)の感想を紹介します。

今年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響で来賓の方々や在校生も代表の3人しか出られなくて、寂しい雰囲気でした。

しかし、それ以上に3年生の卒業式に対する姿勢は、3年生最後を飾るのに相応しく貫禄のある姿が感じられました。最後に聞かせてもらったエグザイルの「道」は、真岡東中学校への3年間の感謝と、これからも頑張ろうという気持ちが心に響いて感動しました。

この卒業式で感じた3年生の輝かしい姿を、今の世代にも伝えていきたいです。

那花衣桜里(2-1)



みんなで考えよう！何のために勉強をするのか？…⑦(最終回)

この連載を読んで、君たちが「自分は〇〇のために勉強するぞ！」「将来の〇〇に生かしていただく！」「勉強する意味ってこんなところにあるんだ」「結局、勉強って自分のためなんだ」などと自分の考えをもてたり、意欲的に勉強する上で何らかの参考になったりすれば幸いです。保護者の皆様は、どのように思われたでしょうか？「何のために勉強するのか？」との問いかけ…難しい問題ですが、とても大切な問題であると思います。



— 良書から「何のために勉強するのか」を考える —

「路傍の石」 山本有三 著

栃木が生んだ文豪、山本有三の名著「路傍の石」…1937年に発表されたこの本は、貧乏と逆境に耐え、自分を生かそうとする少年の姿を描く成長小説です。きっと保護者の皆様の中にもファンは多いことでしょう。多感な思春期を迎えた君たちに、ぜひ読んでほしい小説の中の一冊です。

この物語は愛川吾一の少年時代が中心となっていますが、これを読まれたとしたら「吾一」の章の「鉄橋事件」の箇所、特に感動されるのではないのでしょうか。全体的に、吾一が自分というものはっきりと自覚し、しっかりとした自分の考えを持ち、自信を持って生きていく、自主性のある人間に成長していく姿がつかめる話になっていますから、大変ドラマチックです。少年時代、奉公時代、そして上京してから自立への時代とたどっていくと、大筋で最も彼を励まし押し進めていったのが「鉄橋事件」であり、担任の次野先生の教訓的な話であることに気付くでしょう。

それにしても、言葉遣いを確かめ、当時の社会背景や生活の様子をしっかりとつかまないと、物語の真意は通じません。例えば、当時の中学進学は極めて少なく(小学校までの義務教育、進学は金持ちのみに限られた時代でした)、また男尊女卑(男性中心)の社会で、貧乏のため母「れん」に封筒貼りなどの内職が強いられるなど…そんな時代であったのです。自由がなく、民主主義が保証されていない状況の中での貧乏な生活と現在との違いなど、家庭で親子の話題にできるのではないのでしょうか。

さて、吾一が中学へ行きたいが行けないという矛盾に悩むことに対して、次野先生と本屋の黒川さんが吾一の中学進学のために学資援助をすることについても、深い理解が必要となるでしょう。彼の小学校時代とは友達の間柄もすっかり変わった「奉公」は、封建制下の貧乏生活を余儀なくされている吾一や母にとっては、避けられなかったことについてもです。「鉄橋事件」は、京造たち級友と門松を運んだ「松こや」での、今から考えるとうらやましい限りの「子どもの世界」での交流後に起こされた事件です。黒川さんは吾一の中学進学中止が原因だとしていますが、ここは君たち自身に考えてもらいたいところです。

『これからの者は、何よりも生きなくてはいけない。自分自身を生かさなくってはいけない。たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。』

次野先生は吾一に行動の無謀をたしなめるとともに、吾一という名の意味、そして世界に一人しかいない存在であることを話します。大切だと思われる箇所を何回も読み、君たちの考えを深めてほしいものです。

「人は何のために勉強するのか?!」を問い続けて…。